ポートフォリオ

木ノ下 峻也

内容

| 1. | 自己紹介・プロフィール | 2 |
|----|-------------|---|
| 2. | スキルレベル | 3 |
| 3. | 将来のビジョン | 3 |
| 4. | 作品紹介 | 4 |

1. 自己紹介・プロフィール

生年月日/1999 年 12 月 3 日 血液型/A 型 Mail/1048toppy@gmail.com

木ノ下 峻也 Kinoshita Toshiya

職業 プログラマー

2021年、神戸電子専門学校を卒業後、WDB 工学株式会社に正社員の技術派遣社員として入社。その後、三菱電機エンジニアリング株式会社に配属し、デジタルコンテンツ部(以下 DC 部)のメンバーとして MR アプリ開発のプログラミングなどを担当。

2022年、

XR 技術推進プロジェクト(以下 XR プロ)が発足し、 DC 部と兼務で XR プロメンバーとして、業務用 MR アプリ 開発の全般を担当。

プログラマーとして、複数人での開発を意識した設計を 得意とし、通信・サーバー担当と連携しながら、アプリの設計、 機能開発経験が強み。



趣味/音楽鑑賞 ポップスやロックなど、世間的に 流行の音楽を聴いています。

趣味/楽器

ギターやピアノを休日によく弾いております。

自己 PR

ゲームプログラミングとしては、学生時代に複数回チーム開発を行っておりました。そこでは自分はメインプログラマーとして、ゲームのメイン部のプログラミングを担当しておりました。複数人の開発を想定して、オブジェクト指向を意識し、コメントアウトを心がけて開発しておりました。Unityで開発を行った際は、Unityの機能である Nav Mesh(地形を利用した追跡機能)や 3DSound などを用いてゲームの品質を向上させ、ゲームの軽量化として Occlusion Culling(視錐台カリング)を採用しておりました。また、他のメンバーの担当領域の割り振りや、技術的な相談などのサポートも行っておりました。その結果、学校で開かれた作品発表会で上位優秀賞に選ばれたことがありました。

社会人になってからも、学生時代の経験やスキルを活かし、Unity を用いて業務システムの機能開発を行っておりました。内容は Microsoft が販売している MR デバイス「HoloLens 2」というデバイスの専用アプリケーションを開発しており、実績としては実に 10 件の MR アプリケーションを担当しておりました。またプログラミングだけでなく、関連文書の作成、新規プロジェクトの要件定義、機能設計なども担当しておりました。

2. スキルレベル

| 使用スキル・ツール | 使用歴 | 使用頻度 | 使用レベル |
|------------|--------|-------|-------|
| Unity · C# | 5年10カ月 | ほぼ毎日 | **** |
| HTML · CSS | 10 カ月 | 案件時のみ | *** |
| JavaScript | 4カ月 | 案件時のみ | **** |
| Maya | 3カ月 | 案件時のみ | *** |

3. 将来のビジョン

「専門分野に長けたゲーム業界の最先端で活躍するプログラマー|

学生時代、ゲーム会社に憧れて専門学校でプログラミングを基礎から学び、ゲームに使われる多くの技術を学び知見を得ました。新卒の就活ではゲーム会社に入社はできなかったものの、後に入社した会社では業務を通じて技術はもちろん、社会人として仕事に対する意識、コミュニケーションの大切さ、プロジェクトを進行する過酷さに加え、乗り越えた達成感など多くの経験を得ることができました。

第 2 新卒といわれる今、社会人経験を得た状態でもう一度ゲーム会社に挑戦し、ゲーム クリエイターとしてキャリアを形成していきたいと考えております。またゲームのシステ ムだけでなく、通信やサーバーの分野の理解も深め、多くの場面で活躍し頼られる人材にな りたいと考えております。

4. 作品紹介

| タイトル | METAL GUNS SIMULATION SIMULATION F START | | |
|--------------|--|--|--|
| 作品概要 | 専門学校の授業の一環で制作した作品。 | | |
| | 複数人での開発経験、ゲームエンジンの技術習得が目的。 | | |
| コンセプト | FPS のガンシューティング。敵を倒しつつ武器や | | |
| | アイテムを集め、ボスを倒すとゲームクリア。 | | |
| | 主にバトルアクションとマップ制作の2点に力を入れた。 | | |
| | ○バトルアクション:派手なパーティクルと効果音を用い | | |
| | て、撃墜時に爽快感を演出。 | | |
| | ○マップ:Unity の機能 Terrain を用いて作成。 | | |
| | 自然な地形を意識し、シェーダーを用いて雰囲気を | | |
| | 演出。Occlusion Culling を用いて軽量化。 | | |
| 制作時間 | 約半年 (6 カ月) | | |
| 使用ソフト・使用言語 | Unity 2019.3.15f1 , C # | | |
| 使用モデル・使用アセット | Particle Pack, Easy Weapons, Skybox Series Free, | | |
| | Sci-Fi Styled Modular Pack, RTS Sci-Fi Game Assets v1, | | |
| | Sci-Fi Enemies and Vehicles, Nature Starter Kit 2, | | |
| ポジション・担当領域 | メインプログラマー。タイトル、プレイヤー、敵、武器、 | | |
| | アイテム、素材収集など。(マップ以外) | | |







